

研究課題名 民族スポーツの技術と知識の民族誌ーチンロンを事例とする現象学的人類学の試みー

研究代表者 石井 隆憲

スポーツ人類学研究において、民族スポーツの身体技法やその認識、あるいは固有の知識といったものは、民族誌において厚い記述をするために明らかにしなければならない必須の要件である。特に、動きや感覚に関わるスポーツ固有のテクニカルタームは、その世界のあり方を示す表象的な表現でもある。本研究では、ミャンマーの伝統スポーツであるチンロンを対象に、この世界で使われている固有のテクニカルタームを日常的な会話や指導場面の中から抽出し、その意味内容を明らかにすることを目的としている。

上記の目的を果たすため、今回は以下のような日程で調査を実施した。

2016年8月26日～9月1日(ミャンマー調査)

2016年9月6日～9月12日(ミャンマー調査)

2016年9月19日～9月26日(ミャンマー調査)

2016年11月11日～12月4日(海外から2名の招聘)

2016年12月24日～2017年1月7日(ミャンマー調査)

以上の調査から、チンロンに関連する54の表現を抽出することができた。これらの表現は、まだ分類などをするに至っていないが、少なくともチンロンのプレイだけでなく、チンロンが行われている状況を表現するような言葉や動く感覚を表現する言葉も含まれている。これらの言葉を抽出できたことで、現象学的な民族誌の記述がより「厚い記述」にすることができる条件を整えることができた。